

(別紙様式10)

**2019年度 北極域研究共同推進拠点 共同研究等報告書**

申請区分:  萌芽的異分野連携共同研究  **共同推進研究**

産学官連携フュージビリティ・スタディ

共同研究集会

産学官連携課題設定集会

研究課題名: 変動する気候や社会状況の中で主体的に地域作りに取り組む先住民社会の研究

研究期間: 2019年度 ~ 2019年度

共同研究員	氏名	所属・職名	専門分野	区分 (注1)
研究代表者	林直孝	北海道大学北極域研究センター 海外研究員	生態人類学	
研究分担者 (拠点外)	井上敏昭	城西国際大学 教授	文化人類学	
	大石侑香	国立民族学博物館 特任助教	生態人類学	
	野口泰弥	北海道立北方民族博物館 学芸員	社会人類学	
研究分担者 (拠点内)	的場澄人	北海道大学低温科学研究所 助教	冰雪学	
研究協力者 (注2)	立澤史郎	北海道大学大学院文学研究科 助教	保全生態学	
	近藤祉秋	北海道大学アイヌ/先住民研究センター 助教	文化人類学	
	高橋美野梨	北海道大学北極域研究センター 助教	国際政治学	
	金森万里子	東京大学大学院医学系研究科 博士課程	公衆衛生学	

(注2) 2019年2月に提出した計画申請書には、『若手の日本人研究者を国内から一人招待』することを予定していた。予定通り、東京大学大学院から金森氏を札幌に招聘し、集会に参加、発表していただいた。2020年2月に提出した計画申請書(萌芽、研究集会とも)には、協力者としてはじめから参加していただいている。

**【研究の内容】**

現在は、人新世(Anthropocene)と呼ばれている時代である。この言葉は、人間活動が予想だにしない仕方で自然環境に影響を及ぼし、我々社会に突如として異変を起こす可能性があることを表している。これからも続くであろう気候変動に加え、社会変動にも耐えうる地域作りの仕方を、北極域における事例から議論するため、今年度は、二回の研究集会を開いた(表参照)。我々の地域づくりに関する見方は、1)その土地の自然環境条件、2)歴史的経過(主に政治的・経済的制約)、そして3)文化的背景を強調する。11月の研究集会では、これに加えて、地域のリーダーの存在が大事であることを話し合った。2月の研究集会では、各研究者の今後の研究計画を発表し、それが今後の我々の研究集会(申請中である北極域研究共同推進拠点の事業)とどう関係できるかを話し合った。また、将来、各研究者が一章ずつ分担し、書籍を出版することを確認した。

日程(月日)	日数(日)	活動内容	場所	共同研究員・研究協力者の参加者名	参加者数(人)
2019.11.10	1	ワークショップ	札幌	林直孝、井上敏昭、大石侑香、野口泰弥、的場澄人、立澤史郎、近藤祉秋、高橋美野梨、金森万里子	9
2020.2.23	1	ワークショップ	札幌	林直孝、野口泰弥、的場澄人、近藤祉秋、高橋美野梨	5

【注】新型コロナウイルスの被害拡大を恐れ、2月の研究集会には、道外から参加する予定だった井上氏、金森氏には、参加を見送るように林がお願いした。

### 【研究論文や著書等】

著者名(共著者名含む)、発行年、論文タイトル、掲載誌名、巻・号、ページ数、DOI、査読の有無、インパクトファクター(IF、分かれば)、分野(表下にある(注3)から一つ番号を選択)を記入して下さい。

著者名, 発行年, 論文タイトル, 掲載誌名, 巻・号, ページ, DOI	査読の有無	IF	分野(注3)
Hayashi, Naotaka and Walls, Matthew. (2019): Endogenous Community Development in Greenland: A Perspective on Creative Transformation and the Perception of Future, <i>Polar Science</i> , 21, 52-57. doi.org/10.1016/j.polar.2019.06.002	O	1.03	9
井上敏昭。(2020年3月予定)「アラスカ先住民社会におけるメンター教育の伝統とその若年者支援活動への応用」『城西国際大学紀要第28巻第3号 福祉総合学部』城西国際大学。	O		9
近藤祉秋(2019)「聞く犬の誕生：内陸アラスカにおける人と犬の百年」大石高典・近藤祉秋・池田光穂(共編)『犬からみた人類史』勉誠出版、pp. 234-253。	X		9
近藤祉秋(2019)「礼文島の暮らしと生き物」『BIOSTORY』32, pp. 74-75.	X		9
近藤祉秋(2020)「赤肉団上に無量無辺の異人あり：デネの共異身体論」『たぐい』Vol.2, pp. 28-39.	X		9
近藤祉秋(印刷中)「先住民とモニタリング」田畑伸一郎・後藤正憲(共編)『北極の人間と社会』北海道大学出版会、ページ数未定。	X		9
Kondo, Shiaki (In Press) Bird-Lovers in the Boreal Forest: Taking/Saving the Lives of Animals in Interior Alaska 『早稲田大学文学学術院文化人類学年報』14: Page # unknown.	X		9
近藤祉秋(印刷中)「資源探掘と先住民社会の関係」北海道立北方民族博物館(編)『第34回北方民族文化シンポジウム報告書』北海道立北方民族博物館、ページ数未定。	X		9
Noguchi, Hiroya and Shiaki Kondo (2019) Hunting tools and prestige in Northern Athabaskan culture: Types, distribution, usage, and prestige of Athabaskan daggers. <i>Polar Science</i> 21: 85-100. https://doi.org/10.1016/j.polar.2019.03.003	O	1.03	9
野口泰弥(2020年3月予定)「ユーコン準州先住民によるサケ資源管理の制度的背景:アイヌ民族の権利における現状との比較から」『第34回北方民族文化シンポジウム 網走 報告書』一般財団法人北方文化振興協会：網走	O		9
Takahashi, Minori. (2020) The contours of the development of non-living resources in Greenland. <i>Polar Record</i> https://doi.org/10.1017/S0032247419000676	O	0.90	9

(注3) 分野:① 化学 ② 材料科学 ③ 物理学 ④ 計算機&数学 ⑤ 工学  
⑥ 環境&地球科学 ⑦ 臨床医学 ⑧ 基礎生命科学 ⑨ 人文社会系

【研究発表】

以下の事項をご記入ください。

発表年月日、発表者名(共著者を含む)、発表タイトル、発表学会等名称、発表地(国、県、市など)、招待講演についてはその点も明記してください。

発表年月日	発表者名	発表タイトル	発表学会等名称	発表地	招待講演(○)
2019.11.9		気候が変わる、 魚がうごく、 人もうごく: グリーンランドの漁業	北海道大学アイヌ・先住民研究センター生業と食プロジェクトセミナー 「先住民による漁猟の現在:北極域の事例から」	札幌:北海道大学総合博物館	○
2019.11.22	Hayashi, Naotaka	Building Greenlandic identity and viable communities through livelihoods in the Anthropocene.	the joint meeting of the Canadian Anthropology Society (CASCA) and American Anthropological Association (AAA) annual meeting,	Vancouver, BC, Canada: Vancouver Convention Center.	
2019.6.1	近藤祉秋	内陸アラスカのカケ漁撈史と現代的課題:科学人類学と狩猟採集民研究のはざままで	日本文化人類学会第53回研究大会	仙台:東北大学川内キャンパス	
2017.7.13	近藤祉秋	内陸アラスカの犬ぞり文化:人と犬の1世紀	『犬からみた人類史』出版記念イベント「北方に生きる人と犬:動物行動学と文化人類学の視点から」(第31回マルチスピーシーズ人類学研究会)	網走:北海道立北方民族博物館	
2019.10.7	近藤祉秋	アラスカ先住民による環境管理	第34回北方民族文化シンポジウム「環北太平洋の伝統と文化 4アラスカ・ユーコン地域」	網走:北海道立北方民族博物館	

2019.11.9	近藤祉秋	内陸アラスカの事例から	北海道大学アイヌ・先住民研究センター生業と食プロジェクトセミナー「先住民による漁獵の現在:北極域の事例から」	札幌:北海道大学総合博物館	
2019.11.17	近藤祉秋	信じる者は生き残る:ポスト世俗化時代の内陸アラスカ先住民	第8回北海道宗教研究会	札幌:北海道大学	
2019.11.23	Kondo, Shiaki	Northern Pacific Collaborations for Educating New Generations of Indigenous Studies Scholars.	2019 AAA/CASCA Annual Meeting	Vancouver, BC, Canada: Vancouver Convention Center.	
2019.10.6	野口泰弥	ユーコン準州先住民によるサケ資源管理の制度的背景	第34回北方民族文化シンポジウム・網走:環北太平洋地域の伝統と文化4 アラスカ・ユーコン地域	網走市オホーツク・文化交流センター	

【特許等】

なし

【本共同研究に関連して実施した集会(注4)等】

なし

【本共同研究の発展】

外部資金への応募はないが、2020年度の萌芽的異分野連携共同研究と共同推進研究の事業費を申請した。

【アウトリーチ、取材、その他】

林直孝, アップリアホ捕りー北グリーンランドの夏の楽しみ, 日本極地研究振興会メールマガジン, 20, [http://kyokuchi.or.jp/?page\\_id=10216](http://kyokuchi.or.jp/?page_id=10216)

近藤祉秋(取材協力)「クローズアップ#102 文化人類学者がアラスカで考えた『人新世』のつきあい方」いいね! Hokudai(北海道大学高等教育推進機構科学技術コミュニケーション教育研究部門 CoSTEP 広報ウェブサイト) 2019年5月22日掲載 [http://costep.open-ed.hokudai.ac.jp/like\\_hokudai/contents/article/1702/](http://costep.open-ed.hokudai.ac.jp/like_hokudai/contents/article/1702/)

近藤祉秋(ゲスト)、古澤輝由(聞き手)「ビバ！アラスカ地球紀行：文化人類学者が考える『人新世』とのつきあい方」第106回サイエンスカフェ札幌、2019年5月26日、札幌：紀伊國屋書店札幌本店。イベント報告：<http://costep.open-ed.hokudai.ac.jp/costep/contents/article/1980/>

近藤祉秋(2019)「人新世に生きるヒト：アラスカの環境人文学から考える」第95回バイオミメティクス市民セミナー、2019年11月2日、札幌：北海道大学総合博物館。

近藤祉秋(2019)「北方先住民と環境モニタリング」北海道大学アイヌ・先住民研究センター公開講座「アイヌ・先住民を学ぶ④」、2019年11月5日、札幌：北海道大学。